

法政大学グローバル教養学部 (GIS) の紹介

グローバル教養学部 (GIS) 教授・学部長

福岡賢昌, PhD

大学受験の現状

- ・ 一般選抜〈偏差値〉と総合型選抜、指定校選抜、付属校

年内入試（総合型選抜等）が急激に増加。偏差値が出る一般選抜は私大では定員の4割に。大学学部別偏差値リストの形骸化：科目・科目数はバラバラ、英語は英語外部試験利用入試に。

- ・ 高大連携の加速

- ・ 高等教育と学歴

グローバルでは、学歴＝学位というのが常識。「専門性」を身に付ける必要性。そこで、欧米のリーダー層では修士以上が標準に。修士に進学するか学士課程に行かず専門性を身に付けるか。「学士」の存在意義が問われている。

- ・ 英語力

中高一貫校では、高校3年までに準1級を目指すところが急激に増加中。学力として法政と同程度あるいはそれ以上の大学に進学する場合、英検準1級程度の英語力が必須になりつつある。「現時点」では大学受験において有利。

法政大学の学部とキャンパス

15学部

〈市ヶ谷キャンパス〉

法学部／文学部／経営学部／国際文化学部／人間環境学部／
キャリアデザイン学部／GIS 〈グローバル教養学部〉／
デザイン工学部

〈多摩キャンパス〉

経済学部／社会学部／現代福祉学部／スポーツ健康学部

〈小金井キャンパス〉

情報科学部／理工学部／生命科学部

法政大学 GIS(グローバル教養学部)とは

- ◇ 法政大学GISとは(世間のイメージは正しい?)
- ◇ GIS Mission 2026
- ◇ 100%英語による世界基準のリベラルアーツ教育カリキュラム
- ◇ 付加価値プログラム
- ◇ Graduate School Admission Support (GSAS/海外大学院進学サポート)
- ◇ GIS Global Leadership Initiative (GGLI/産学連携組織)
- ◇ 学生と教職員の特徴
- ◇ 全体まとめ(図)
- ◇ 入学試験



法政大学
GIS(グローバル教養学部)
学部長 福岡賢昌

私たち法政大学グローバル教養学部(通称GIS)は2008年4月に設立されました。2026年度は19年目になります。私たちは設立以降、グローバル基準を常に意識してきました。例えばGISの講義は100%英語で行われていますが、これは英語圏だけでなくアジアや欧州の高等教育が英語で行われていることに端を発しています。また、リベラルアーツ教育を提供している理由は、欧米の学士課程では、人格形成、幅広い知識教養と基礎的な専門分野の習得、また、実践的なスキルの習得に主眼が置かれているからです(GISではゼミ活動で専門分野を深めます)。

日本はかつて世界で大きな存在感があり輝きを放っていました。1979年には『ジャパン アズ ナンバーワン: アメリカへの教訓』が出版され、その10年後の1989年には三菱地所がロックフェラーセンターを買収したことはその証左でしょう。しかし、それから約35年経ち、日本はかつての存在感と輝きを失ってしまいました。理由の一つは、日本の競争相手の変化があげられます。つまり、日本にとってグローバル競争と言えば欧米先進国との競争でしたが、現在は中国、インド、アフリカ諸国等が台頭したことにより、5大陸で競争せざるをえなくなったわけです。話を単純化すればグローバル市場においてプレイヤーが増えたことで、競争が激化し相対的に存在感が失われたと言えます。

プレイヤーが増えれば、当然、価値観も多様化するため、様々な場面における合意形成プロセスは複雑化し困難になります。地球規模で発生している諸問題を解決するプロセスもその一つです。いかに自国や企業等の利益を考えながら折り合いをつけることができるか、そして、最終的にいかにグローバル社会の発展に貢献することができるか。こうした課題を多角的な視点から捉え、解決できる能力を持った人材が今、求められています。

今後、社会は私たちが予想する以上に、国境を越えてヒト、モノ、カネ、情報が行き交い、労働市場もよりグローバル化されていくでしょう。そして、近年話題のDXやAIがさらにそれを加速化させていきます。つまり、日本だけでしか通用しないものはますます淘汰されていくということです。例えば、学位の考え方もそうです。グローバル市場では修士や博士を持っているビジネスパーソンが多くなりました。もはや学士は最終学歴とはいえません。これからの若者はこのように激変するグローバル社会を生きていくのです。

私たちがこれまで提供してきた「英語によるリベラルアーツ教育」は今の時代、その重要度が増しています。私たちには設立以来培ってきた17年間の経験とノウハウがあります。それらを活かしながら、これからも「国内外問わず、英語を活用し、グローバル基準の知識・教養、実践的スキルとマインドをもって、堂々と世界の人々と渡り合うことができる魅力あるリーダーとして、グローバル社会の発展に貢献できる人材」を育てていきたいと思えます。

法政GISとは(世間のイメージは正しい?)

受験生や保護者様が抱く法政GISのイメージ

1) 全ての講義が英語で行われる

→教授陣による**講義**だけでなく、
講義内の**ディスカッション**や**プレゼンテーション**、
レポートや**試験**も**英語**で行われる**学部**です。

(参考)

* 日本の大学には**全講義英語**で行われる

学部と**プログラム**があります。(資料参照)

GISはいわゆる「**国際系**」で括られることが多いですが、
この括りは注意が必要です。

国際系学部の特徴比較

	全科目英語			一部科目英語			
	大学	学部・学科	プログラム	学部・学科	学部・学科		
主催 と 特徴	大学主催型 大学の全科目が英語で教授される。 例) A大学 ★学生はA大学の各学部 に所属	学部主催型 単独学部の全科目が英語で教授され、幅広い専門分野を深く学ぶ。 例) GIS (グローバル教養学部) ★学生はGIS (グローバル教養学部) に所属	既存学部横断型 複数学部の一部の科目が英語で教授され、それらを横断的なプログラムとして学ぶ。 例) 経営学部、経済学部等で英語で行われている科目を受講 ★学生は「本籍」を各学部 に置き、プログラムに参加	学部コース型 単独学部内に英語を教授言語とするコースが設置され、コース内の科目を中心に学ぶ。 例) 経済学部英語学位コース ★学生は経済学部英語学位コースに所属	国際系学部といっても学べる学問分野、英語で行われる科目の割合は学部(学科)により大きく異なる。 ・日本のこと / 政治経済のこと / 異文化のこと / 英語力の向上(語学と言語学は異なる) など また上級科目のみ英語で提供されている場合もあるので注意が必要 例) 国際A学部(学科) ★学生はが国際A学部(学科)に所属		
	1学年定員	中～多 (200名～)	中～多 (100名～)	少 (20名前後)	少～中 (20名～)	1学年定員は学部によって異なる	
全科目に対する英語の割合	100%	100%	100%	100%	0～30%	30～40%	40～60%
必要な英語力	中～高	高	高	高	低	低	低～中
帰国生の割合	中～多	多	多	多	少	少	中

*上記は一般的な分類であり、これらに限定されるものではありません。

法政GISとは(世間のイメージは正しい?)

受験生や保護者様が抱く法政GISのイメージ

1) 全ての講義が英語で行われる

→教授陣による**講義**だけでなく、
講義内の**ディスカッション**や**プレゼンテーション**、
レポートや**試験**も**英語**で行われる**学部**です。

(参考) * 日本の大学には**全講義英語**で行われる

学部と**プログラム**があります。(資料参照)

2) 高い英語力が必要

→大学の講義についていくためには

高度な英語運用力が必要。ただし、

私たちの**18年間のノウハウ**によって、入学後早期に
総合的かつ学術的な高い英語運用力を獲得することは可能！！

3) 帰国子女が多い

→そもそも帰国子女とは？長い海外生活？英語堪能？

いつ(幼・小・中・高)

どこに(国・地域)

どのくらい(期間) 海外で生活したか

- ・海外で生活したことがない学生も
- ・複数の文化を持つ学生も

→様々な地域・国で教育を受けてきた学生が混ざり合う

多様性のある学部

4) 留学生が多い

・学部に所属する留学生は多くない

・**交換留学生**がGISの科目を受講することがよくある

他学部と比べて

留学生と肩を並べて講義

を受ける機会が多い

5) 少人数教育

→1クラスの平均受講人数は**20人～25人**です。少人数で徹底的にグローバルに活躍するための学術的知識、マインドセット、スキルを身につけます。

6) MARCH?

- a. 学士課程受験時(一般選抜)の偏差値による括り
(入学後の伸びは考慮されていない)
- b. わたしたちは入学後の伸びに注力。大学卒業後の様々な進路に対応した世界基準かつ独自の高質なカリキュラムと教育によって学生は大幅に成長

・大学における成長感や満足度において全15学部中1位

・進路についてはパンフレットp10も参照してください

法政GIS とは(世間のイメージは正しい?)

2025年8月8日

法政大学 GIS(グローバル教養学部)

【満足度 1 位】卒業生の 98.8%が「満足」と回答

法政大学グローバル教養学部 (GIS)、3年連続 90%超を達成!

～2024年度卒業生アンケート調査結果(報告)～

調査の概要

学校法人法政大学総長室付大学評価室より、2024年度卒業生アンケートが実施されました。

調査項目の大別としては、「大学満足度」「教育内容満足度」「学位授与方針に関する習得度」「在学中の取り組み熱心度」となっています。

GIS 卒業生による評価

■法政大学全 15 学部中 満足度 1 位に

□ 2024年度 GIS (グローバル教養学部) 卒業生の **98.8%**が、「卒業学部・学科への満足度」で「やや満足」または「満足」と回答しました。この結果は、**法政大学 15 学部において、最も高い数値**でした。また、「法政大学の満足度」では **100%**が「やや満足」または「満足」と回答しました。その他、「教養科目」(96.4%)、「専門科目」(93.9%)、「語学科目」(93.9%)、「専門演習」(95.1%)、「カリキュラム全般」(93.9%)に対する満足度においても、90%以上の卒業生が「やや満足」または「満足」と評価しています。

☆この結果から、本学部で過ごした学生が、GIS が提供する教育内容や環境に対して高い満足度を感じていることが分かります。

■グローバルリーダーを育てる GIS ならではの教育環境

☆私たちが目指す「グローバルリーダー」とは、先の読めない現代社会において、問題の本質を見極め、客観的に分析し、様々なバックグラウンドを持つチームをリードし、解決に向けて行動していく人材と定義しています。そのために、グローバルリーダーには 1)高い英語力、2)幅広い知識教養、3)実践的スキル、4)人間力、5)高度な専門知識、6)文化的知性の 6 つの力が必要だと考えています。

☆GIS は、1 学年約 102 名の小規模な学部で、1 クラスの平均受講者数は約 20 名です。この環境では、教員による一方通行の講義ではなく、学生と教員、学生同士が対話を通じて学び合うアクティブラーニングが重視され、学生の主体性と学びの深まりが自然と促されています。

「問題分析・解決力」(93.9%)、「コミュニケーション能力」(92.6%)、「問題分析・解決力」(93.9%)、「コミュニケーション能力」(92.6%)、「親切的思考」(96.3%)、「人間理解」(95.1%)、「専門的学識」(95.1%)の項目も **90%以上の高い習得度**を記録しました。これは、GIS の教育を求めていることを示しています。

教育内容や学習環境に加え、少人数制だからこそ生まれる「主体的な学び」の割合は、**92.7%**、「自分の考えや意見を発表する」(90.3%)、「学生同士で取り組んだ」「ある程度熱心に取り組んだ」と回答した割合は、**15 学部中で**

卒業後の主な進路先

日系グローバル企業・外資系企業等への就職、大学院への進学実績

Future Prospects

Utilising the skills and knowledge gained at GIS, our graduates have successfully secured employment at a range of organizations:

- Foreign-affiliated
- Japanese companies
- Others

Many GIS students have gone on to continue their studies in graduate schools, both in Japan and overseas:

- Graduate study

IRELAND

- Accenture Japan (アクセンチュア)
- UK
- Ernst & Young Advisory (EY アドバイザリー)
- HSBC Securities (Japan) Limited (エイチ・エス・ビー・シーセキュリティーズジャパンリミテッド)
- PricewaterhouseCoopers (プライスウォーターハウスクーパース)
- PricewaterhouseCoopers Aarata LLC (PwC あらた有限責任監査法人)
- University of Oxford
- LSE (London School of Economics and Political Science)
- UCL (University College London)
- University of Warwick
- Lancaster University
- London Business School
- University of Bath
- University of Manchester
- University of Sheffield
- University of Sussex
- University of Bristol
- University of Leeds
- University of Essex

FRANCE

- Beacon Communications (ビーコンコミュニケーションズ株式会社)
- Institut d'études politiques de Paris (Sciences Po)

SPAIN

- University of Salamanca

NETHERLANDS

- Groningen University
- Utrecht University

SWITZERLAND

- Richemont Japan Limited (リシュモンジャパン)
- The Graduate Institute of International and Development Studies (IHEID) (ジュネーブ国際開発高等研究所)

AUSTRIA

- Red Bull Japan (レッドブル・ジャパン)

QUATAR

- Qatar Airways (カタール航空)

UAE

- Emirates Airline (エミレーツ航空会社)

HONG KONG

- University of Hong Kong

SINGAPORE

- Singapore Airlines (シンガポール航空)

AUSTRALIA

- Monash University
- University of Sydney

SOUTH KOREA

- Seoul National University

JAPAN

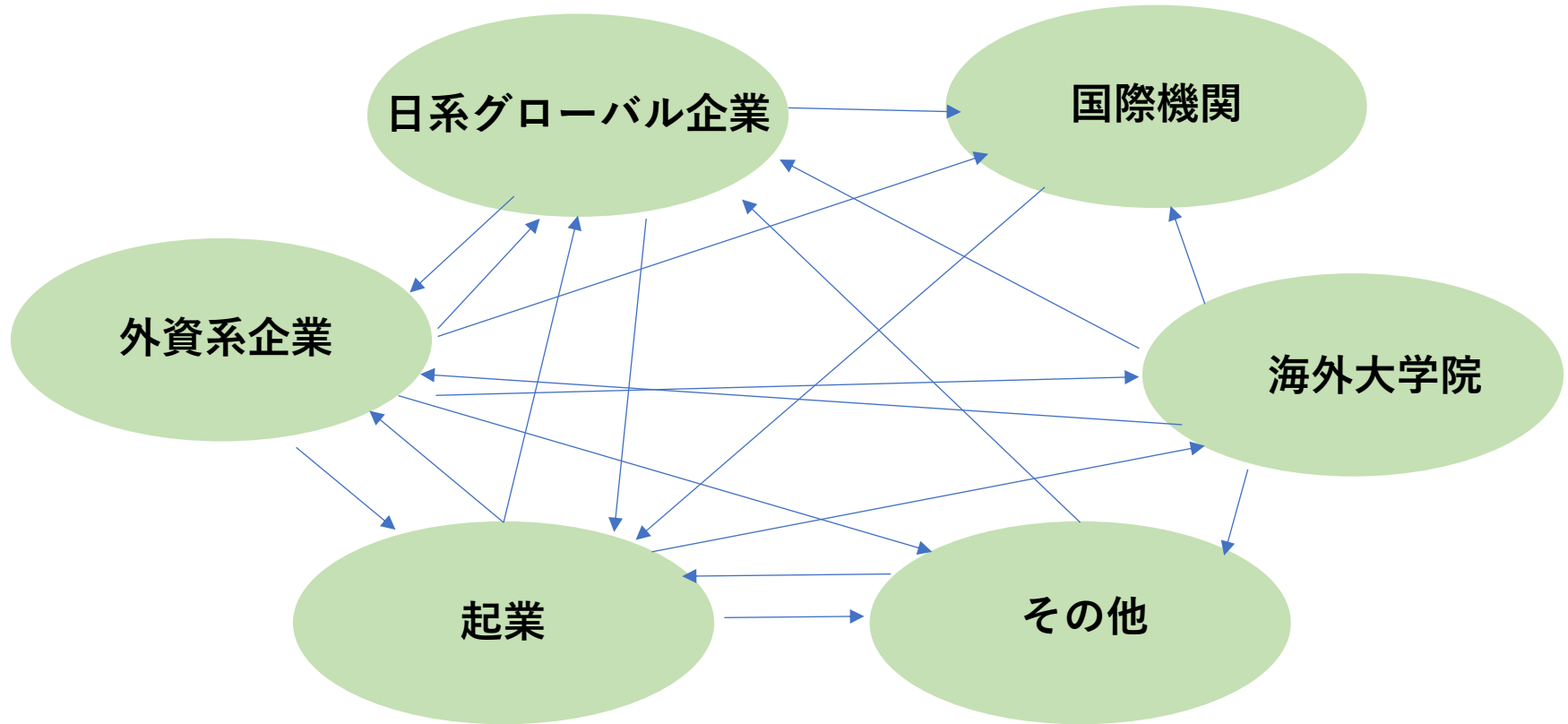
- Ajinomoto AGF, Inc. (味の素AGF株式会社)
- ANA Group (ANAグループ)
- Hakuhodo (博報堂)
- Honda Motor Co., Ltd. (本田技研工業株式会社)
- JAL Group (JALグループ)
- Japan Ministry of Defense (防衛省)
- JGC (日揮)
- JTB Group (JTBグループ)
- JX Nippon Oil & Gas Exploration (JX 石油開発)
- KDDI
- Kyodo News (共同通信社)
- Marubeni Corporation (丸紅)
- Mitsubishi UFJ Morgan Stanley Securities (三菱UFJモルガン・スタンレー証券)
- Mizuho Financial Group (みずほフィナンシャルグループ)
- MUFG Bank (株式会社三菱UFJ銀行)
- NHK (日本放送協会)
- Nihon Unisys (日本ユニシス)
- Nippon Shokubai (日本触媒)
- Nippon Steel Corporation (新日鐵住金)
- Nissan Motor Co., Ltd. (日産自動車株式会社)
- Nomura Securities (野村證券)
- NTT Communications (NTTコミュニケーションズ株式会社)
- NTT DATA (NTT データ)
- Rakuten (楽天)
- Sapporo Breweries (サッポロビール)
- Shiseido (資生堂)
- SMBC Nikko Securities (SMBC 日興証券)
- Softbank Group (ソフトバンクグループ)
- Sony Corporation (ソニー株式会社)
- Tokyo Regional Taxation Bureau (東京国税局)

- TOTO

- Yamaha Motor Co., Ltd. (ヤマハ発動機株式会社)
- Kyoto University
- University of Tokyo
- CANADA
- McGill University
- USA
- Adobe Inc. (アドビ株式会社)
- Amazon Japan (アマゾンジャパン合同会社)
- Amazon Web Services Japan (アマゾンウェブサービスジャパン株式会社)
- Apple Japan (アップルジャパン合同会社)
- Bloomberg L.P. (ブルームバーグ・エル・ビー)
- Costco Wholesale Japan (コストコホールセールジャパン)
- Dell Technologies Ltd. (デル・テクノロジーズ株式会社)
- Deloitte Tohmatsu Financial Advisory LLC (デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザリー)
- Deloitte Touche Tohmatsu LLC (有限責任監査法人トーマツ)
- Federal Express Japan GK (フェデラルエクスプレスジャパン合同会社)
- Goldman Sachs Asset Management Co., LTD. (IBM Japan, Ltd. (日本アイ・ビー・エム株式会社)
- Intel corporation (インテル株式会社)
- Johnson & Johnson (ジョンソン・エンド・ジョンソン)
- Philip Morris Japan (フィリップモリスジャパン株式会社)
- Salesforce Japan Co., Ltd. (セールスフォース・ジャパン)
- Texas Instruments Japan Limited (日本テキサス・インスツルメンツ合同会社)
- Stanford University
- University of Chicago
- Hult International Business School

GISのパンフレット、p10を参照してください。

キャリアパス



6) MARCH?

- a. 学士課程受験時(一般選抜)の偏差値による括り
(入学後の伸びは考慮されていない)
- b. わたしたちは入学後の伸びに注力。大学卒業後の様々な進路に対応した世界基準かつ独自の高質なカリキュラムと教育によって学生は大幅に成長

- ・大学における成長感や満足度において全15学部中1位
- ・進路についてはパンフレットp10も参照してください

c. MARCH間の大学間交流は全くなし

d. 世界では学士は最終学歴ではない

私たちは、国内外問わず、世界人口約80億人の人々と堂々と英語で渡り合うことができるリーダー、グローバル社会の更なる発展に貢献することができる人間を育てます。

グローバル社会でリーダーとして活躍し、グローバル社会の発展に貢献できる人間を育てるためには、学生がこれまで受けてきた教育や個性を活かしつつ、「高い英語力」「文化的知性」「幅広い知識教養」「高度な専門知識」「実践的スキル」「人間力」を育む必要があると私たちは考えています。



- ・ **高い英語力**：最低でも **TOEFL100点 (5.0～5.5)**、**IELTS7.0～7.5**程度の英語力
- ・ **幅広い知識教養**：文学、歴史、哲学、心理学、言語学、国際関係学、経営学等に関する **幅広い基礎的な知識教養**
- ・ **文化的知性**：**複数の文化の中で自分と異なる文化**を持つ人たちと一緒に仕事をする能力
- ・ **実践的スキル**：**問題発見・解決力、批判的・創造的思考力、**
(英語による) ディスカッション・プレゼンテーション能力、
チームワーク、共感力
- ・ **高度な専門知識**：**基礎的な学術的専門知識**（学士課程）、
高度な学術的専門知識（修士/博士課程）
(グローバル社会では、修士か博士が最終学歴になりつつあります。その為、将来、修士や博士の取得を目指すGIS生が増えています。)
- ・ **人間力**：**熱意と責任感**をもって**文化を超えて**様々な人たちと交流し、
多様性あるチーム等を率いることができる人間的な魅力



そこで、私たちは、「高い英語力」「文化的知性」「幅広い知識教養」「高度な専門知識」「実践的スキル」「人間力」を身に付けてもらうために、少人数による100%英語による世界基準のリベラルアーツ教育カリキュラムと独自の付加価値プログラムを提供しています。

100%英語による世界基準のリベラルアーツ教育カリキュラム

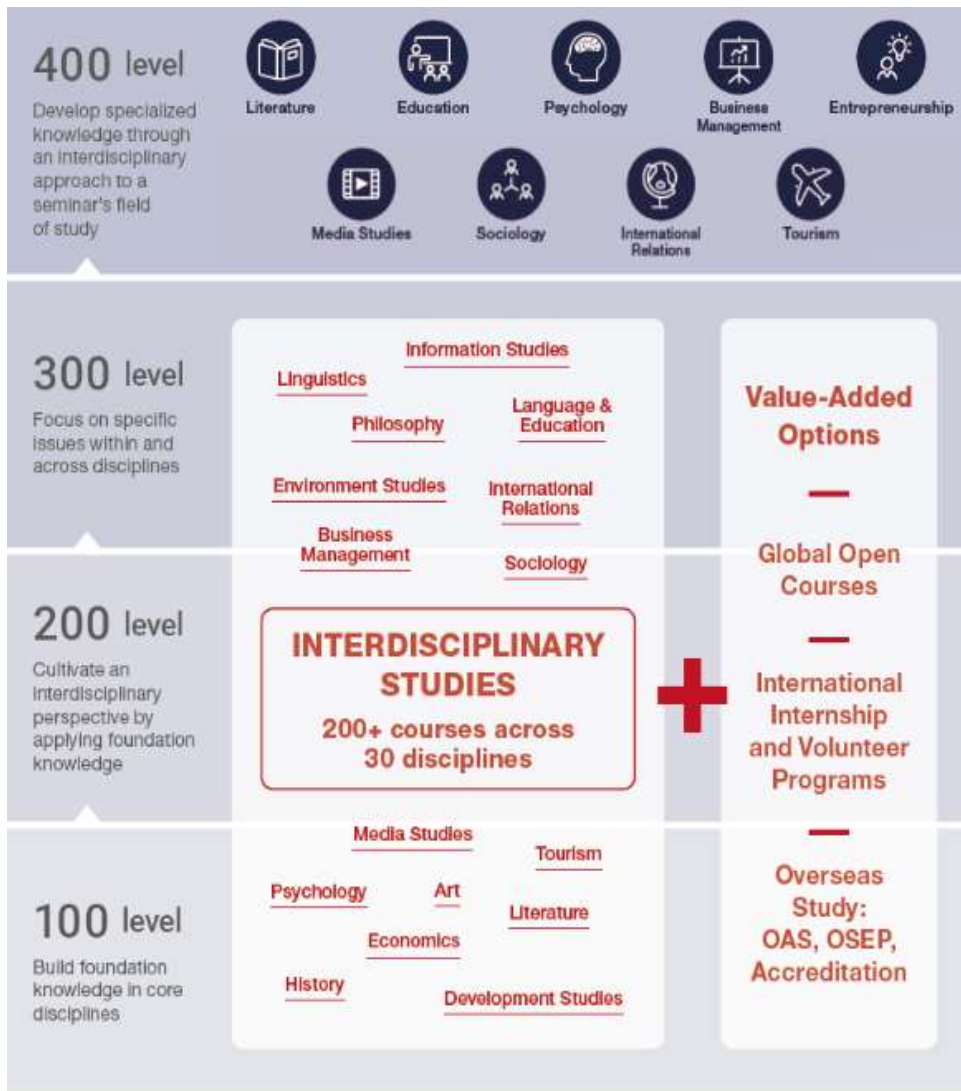
カリキュラムの特徴

- ・主に**人文、社会科学、ビジネス分野**をカバー
- ・科目を100レベル（初級）、200レベル（中級）、300レベル（上級）、400レベル（ゼミ）に分類
- ・**約30の学術分野、200以上の科目**を提供
- ・3、4年次のゼミ活動を通じた基礎的な学術的専門性の習得と修士課程に繋がる高度な専門性の素地を形成
- ・主に**1年次における徹底した英語力強化プログラム**

授業の特徴

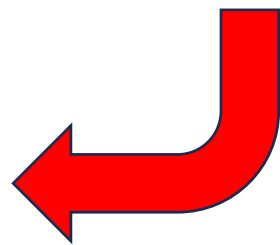
- ・**全授業英語**（ディスカッション、プレゼンテーション、レポート等の課題を含む）
- ・**少人数、双方向、グループワーク（チームプロジェクト）、プレゼンテーション、ディスカッション等のアクティブラーニング**の実施
- ・教員と学生の出身国・地域、長期滞在先は、**世界約60**に及ぶ等、**多様性**のある環境
- ・外部講師を招いて行われることもある実践的な講義（**Leadership and Career Development** 等）の提供

100%英語による世界基準のリベラルアーツ教育カリキュラム



Foundation Courses Laying the groundwork for education and employment. Students acquire the fundamental skills essential for success in GIS and in their future careers through our academic skills courses.

1年次における徹底した英語力強化プログラム



100%英語による世界基準のリベラルアーツ教育カリキュラム

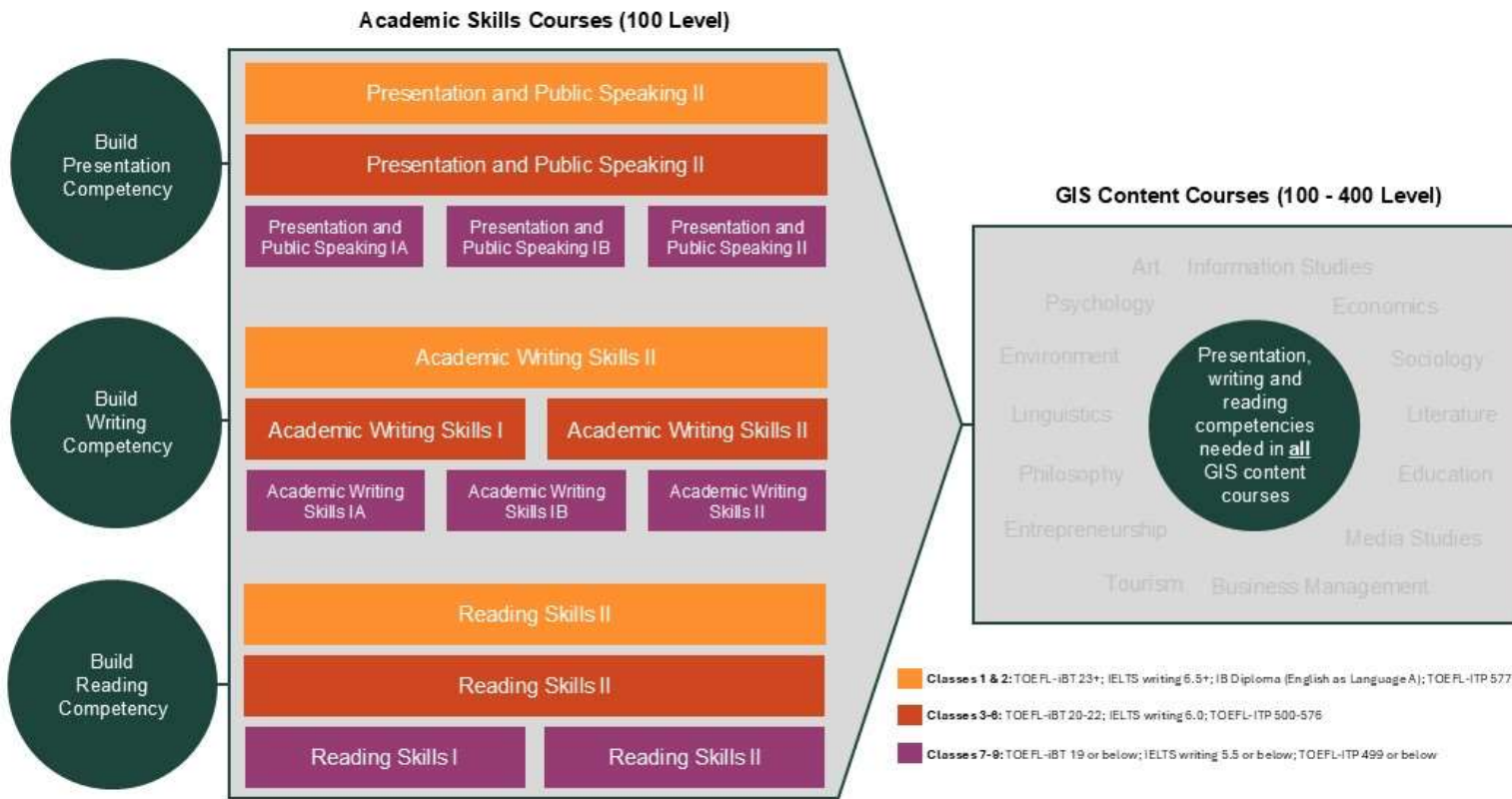
Foundation Courses

GIS Academic Skills Courses

Foundation Coursesの詳しい説明はこちら→→→



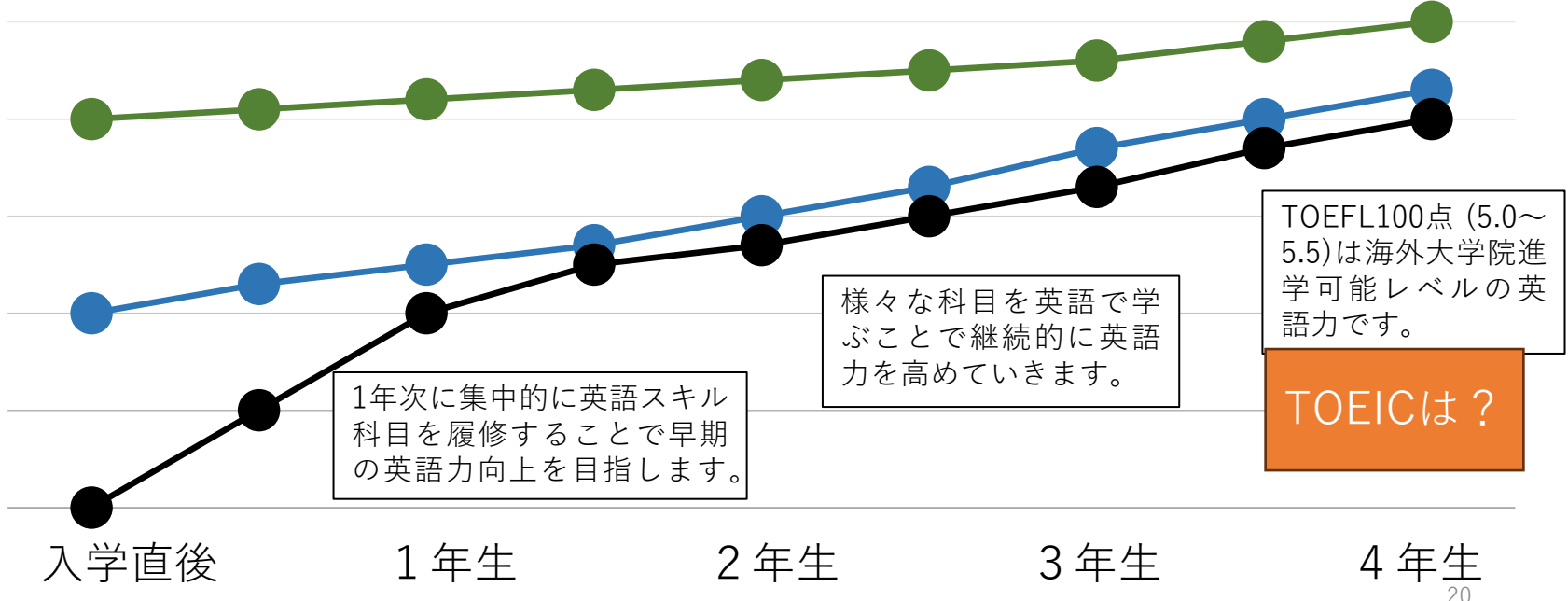
The GIS Academic Skills Courses are tailored by English proficiency and are designed to build confidence and competence in three key areas: presentation, writing and reading. These common courses are the foundation skills needed for success in all GIS content courses.



学生の履修科目(イメージ)

	春/秋	TOEFL90以上 (5.0以上)	TOEFL80程度 (4.5)	TOEFL80未満 (4.0未満)
1年次	春	<u>英語力向上スキル科目 (少)</u> ・上級アカデミック英語科目 ・初級レベル科目	<u>英語力向上スキル科目 (中)</u> ・初級/中級アカデミック英語科目 ・初級レベル科目	<u>英語力向上スキル科目 (多)</u> ・初級/中級アカデミック英語科目 ・初級レベル科目
	秋	・上級アカデミック英語科目 ・初級レベル科目	・中級・上級アカデミック英語科目 ・初級レベル科目	・中級・上級アカデミック英語科目 ・初級レベル科目
2年次	春	・2年次は中級レベル科目、3年次、4年次は上級レベル科目の受講・より専門性を深めるためのゼミ活動への参加 ・GIS提供科目以外に、他学部の公開科目やグローバル教育センターが主催する留学生を対象としたESOP科目の受講 ・学部独自の留学制度 (OAS) や大学の派遣/認定留学制度への参加 等 卒業論文の執筆・成果発表 等		
	秋			
3年次	春			
	秋			
4年次	春			
	秋			

入学時点の英語力の違いによる英語力の伸び(基準別) (イメージ TOEFL iBT <120点満点 (6.0満点)>))



付加価値プログラム

大学・学部内プログラム

- ・海外大学院進学サポート (**GSAS**)
- ・産業界等（日系グローバル企業/外資系企業/起業家等）との連携組織(**GGLI**)
- ・企業就職内定者による学部内キャリアフォーラム
- ・学部独自の留学プログラム(**OAS**) 〈GISでは留学は必須ではありません〉
- ・法政大学派遣/認定留学プログラム
- ・法政大学数理・データサイエンス・AIプログラム (**MDAP**)

外部機関連携プログラム

- ・他大学の研究者や国際機関職員によるトーク(**GIS Talk**)、企業とのワークショップ 等

★過去の実績

- ・**BMW**社とのワークショップ
- ・**Stanford**大学をはじめとする**海外大学教授**による講演
- ・**UNICEF**日本代表者による講演
- ・**フルブライト**派遣講師による特別授業
- ・GGLIに所属する**GGLIフェロー**による講義・講演
- ・東京都主催**SusHi Tech Tokyo 2024~2026 Global Startup Program**
アンバサダーに就任 等

Graduate School Admission Support (GSAS)

海外大学院進学サポート

1. 大学院進学説明会の実施
2. 将来のキャリアプランにおける大学院進学のメリット
3. 大学院進学に向けてGIS在学中にすべきこと
4. 大学院および各種奨学金の紹介
5. 専門分野の教授との個別相談
6. 大学院選択のためのガイダンス
7. 志望理由書や研究計画書の添削

3年早期卒業→海外大学院？

GIS Global Leadership Initiative (GGLI) (産学連携組織)



フェローのリスト
(プロフィール)
はこちら↑↑↑

1. 2023年4月1日に発足した産学連携組織
2. 産業界等で大活躍中のフェロー(21: as of June in 2026)で構成
フェローはGIS生を対象として講義や講演を行ったり、
ワークショップやパネルディスカッション等に参加します

**一部のGGLIフェローによる講義は
Leadership and Career Developmentという科目名で展開中**

3. フェローの勤務先*

- ・外資系企業: セールスフォース、マイクロソフト、GE、Google、IBM、オラクル、NVIDIA、アマゾン、アマゾンウェブサービス、テキサス・インスツルメンツ、EY、デロイトトーマツ、Agorize、QVC、iROBOT 等
- ・日系グローバル企業: NTT東日本、NTTコミュニケーションズ、資生堂、味の素、カシオ計算機、トヨタ研究所、損保ジャパン、三菱電機、日立製作所、三菱UFJ銀行、良品計画 等
- ・政府系機関: 省庁 等
- ・その他、起業: Tring Chain、Tractable、アスエネ、SECAI MARCHE 等

* 過去の勤務先も含みます。

学生

学生の特徴

- ・ 義務教育期間の海外就学者（帰国生）
- ・ 国内インターナショナルスクール出身者
- ・ 高校在学時の単身留学経験者
- ・ 留学未経験者
- ・ 留学生
- ・ 編入生

* 様々な国・地域で教育を受けてきた学生が混ざり合う多様性のある環境です。

教職員

教授陣

- ・ **博士（PhD）** / 専門分野で卓越した実績
 - ・ **海外での研究・講義・勤務経験あり**
 - ・ **外国籍を持った教員率：約60%**
 - ・ 専任教員の専門分野（経営学、観光学、心理学、教育学、国際関係学、文学、メディア学、ジェンダー研究、哲学） * 2026年5月現在
- * 様々なバックグラウンド・専門分野を持つ多彩な教授陣が白熱した講義を展開します。

英語ネイティブのアカデミックアドバイザー

全体まとめ(図)

100%英語による世界基準のリベラルアーツ教育カリキュラム

学生



付加価値プログラム

教職員

高い英語力

文化的知性

幅広い知識教養

高度な専門知識

実践的スキル

人間力

日系グローバル企業、外資系企業、海外(国内)大学院、起業

総合型選抜

2024年度入試より入試の定員を増やしました ↑

自己推薦入試

対象:4月入学者

自己推薦入試

対象:9月入学者

2024年度入試より新しい春入学入試が開始されました。

★大きな変更点

- ・定員が28名から40名に増えました
- ・A基準において、英語外部試験(TOEFL、IELTS、英検)のスコア・級を問わず(提出は必要)出願可能になりました
- ・筆記試験がなくなりました
- ・志望理由書をパーソナルステートメントに変更しました

学校推薦型選抜(指定校選抜)

一般選抜

2027年度入試(2027年4月入学者対象)より制度が変更されました

A方式入試

対象:4月入学者

大学共通テスト利用入試
B方式/C方式
対象:4月入学者

「英語」の得点換算が変更

国語+選択科目+英語外部試験のスコア提出で出願可能
(スコアに応じて、英語の点数を90点、100点、110点、120点満点に換算)

新たにC方式を導入

【B方式】3教科型
国語+選択科目+英語外部試験のスコア提出
(「英語」の得点換算なし)

【C方式】6教科7科目型
国語+地歴公民(1科目)+数学(2科目)+理科(1科目)+情報+外国語(「英語」を強く推奨)

その他

付属校からの入学、法政大学の他学部、他大学からの転編入試験あり

自己推薦入試(総合型選抜) 定員:40名

自己推薦入試(総合型選抜)における2つの基準

2027年度入学試験要項は7月中に公開予定

	S基準	A基準
定員	7名	33名
対象者	日本国内だけでなく日本国外の教育制度出身者で高い学力と英語力を有し、日本について理解があり、将来、海外大学院への進学や国際機関等で働くことで(日系グローバル企業や外資系企業等も選択肢)、日本と出身国及び教育を受けた国との間で架け橋になることを志す者が対象です。	高い学力を有する日本国内の学校に在籍する生徒であって、将来、日本語と英語の両言語を使って、日系グローバル企業や外資系企業等でグローバルに活躍することを志す者が対象です。英語外部試験の最低スコアを撤廃し、現在の英語力だけでなく、入学後の英語力向上の可能性(基礎学力および学修意欲)を含め評価を行います。
出願期間	2026年9月1日～9月10日	2026年10月6日～10月16日
オンライン面接日(対象者)	2026年10月4日	2026年12月6日
合否発表日	2026年11月4日	2026年12月15日

- 新しい自己推薦入学試験が2023年から開始されました。主に基礎的な学力、英語力、リーダーとしてグローバル社会の更なる発展に貢献できる意欲と資質があるかどうかについて確認する試験です。
- 新しい自己推薦入学試験では、受験生のこれまで受けてきた教育とそこから得た経験や学力に応じて、S基準、A基準の2つの基準を用意しました。**基準に優劣はありません。**自身の強みを活かした基準を選んで受験して下さい。
- バックグラウンドが異なる受験生が入学後に交われば**多様性ある学修環境**が創出されます。グローバル社会で活躍するために必要な「高い英語力」「文化的知性」「幅広い知識教養」「高度な専門知識」「実践的スキル」「人間力」を身に付けるには、こうした多様性ある学修環境もまた必要不可欠であると私たちは考えています。

自己推薦入試(総合型選抜) 定員:40名

出願資格および出願書類について

2027年度入学試験要項は7月中に公開予定

	S基準	A基準
出願資格	<p>出願資格：以下の (1) (2) (3) 及び英語能力による出願要件である (4) を満たすこと。</p> <p>(1) GISで学ぶことを強く希望する者</p> <p>(2) 以下のいずれかに該当する者</p> <p>①日本の教育制度により、高等学校または中等教育学校を卒業、もしくは入学時まで卒業見込の者</p> <p>②日本の教育制度により、通常の過程による12年の学校教育を修了、もしくは入学時まで修了見込の者</p> <p>③学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者*</p> <p>もしくは入学時まで認められる見込の者</p> <p>* 日本国外の学校教育における12年の過程を修了した者や国際的な評価団体 (WASC、CIS、ACSI、NEASC、Cognia、COBIS) の設定を受けた学校で12年間の過程を修了した者等</p>	
	<p>(3) 次ページの(a)~(g)のいずれかの成績評価証明書・スコアを提出すること。</p>	<p>(3) 日本国外の教育制度による学校を修了、もしくは修了見込の者は次ページの(a)~(g)のいずれかの成績評価証明書・スコアを提出すること。ただしWASC / CIS / ACSI / NEASC / Cognia、COBIS 認定校の修了 (見込) 者の提出は不要。</p>
英語能力による出願要件	<p>(4)以下のa, b, c のいずれかを満たすこと</p> <p>a. TOEFL iBT 90点以上 (2026年1月20日以前受験者:旧スコア形式) もしくは 5.0以上 (2026年1月21日以降受験者:新スコア形式)</p> <p>b. IELTS (Academic Module) (IELTSコンピューター版を含む) band 7.0以上</p> <p>c. Language Aに英語を選択し、IB Diplomaを取得または取得見込み</p> <p>※TOEFL iBT®はTest Date スコアのみ対象 (My BestTMスコアは不可)。 ※TOEFL iBT®Home Editionは不可。 ※IELTS Onlineおよび IELTS Indicatorは不可。</p>	<p>(4) これまで受験した以下のいずれかの結果を提出すること (ただし、スコア・級は問わない)。</p> <p>a. 実用英語技能検定 (英検)</p> <p>b. TOEFL iBT®</p> <p>c. IELTS (Academic Module) (IELTSコンピューター版を含む)</p> <p>※TOEFL iBT®はTest Date スコアのみ対象 (My BestTMスコアは不可)。 ※TOEFL iBT®Home Editionは不可。 ※IELTS OnlineおよびIELTS Indicatorは不可。</p>
その他提出書類	<p>①調査書</p> <p>②留学先の成績証明書 (該当者のみ)</p> <p>③ Personal Statement 英文で a. 志望動機を100~120 words、b.リーダーシップ経験または探求型学習経験を400~450words記述 + 補足資料3枚まで (任意提出)</p> <p>③ 推薦状 〈推薦状の項目〉</p> <p>a. 推薦者の名前 b. 所属 c. 受験生との関係性 d. 受験生の学力・知的能力 (5段階評価) e. 受験生の向上心 (5段階評価)</p> <p>f. 受験生の創造力 (5段階評価) g. 受験生の協調性 (5段階評価) h. 受験生の情緒面での安定性 (5段階評価) i. 特記事項</p>	

日本国外の教育制度による学校を修了もしくは修了見込の者、S基準で出願する者が受験するために必要な出願資格と提出書類

	出願資格	提出書類
a	国際バカロレア (IB) プログラム (日本語DPを含む) を履修し、Diplomaを取得、もしくは取得見込みである。	直送の場合：Transcript of Grades 同封の場合：Transcript of Grades と Diploma 最終試験6科目 国際バカロレア (IB Diploma) 取得見込みについては、本学部所定の書式を使用して下さい。
b	GCE Advanced Level 3科目、またはGCE Advanced Level 2科目とGCE Advanced Subsidiary Level 2科目の合計4科目を受講している (見込みを含む)	GCEの成績評価証明書
c	NCEA (National Certificate of Education Achievement) Level 3を含む、現地大学への入学要件 (UE: University Entrance) を満たしている (見込みを含む)	NCEA Level 3を含む成績評価証明書 (Record of Achievement) NCEA Level 3及びUE: University Entranceの結果が出願期間までに発表されない場合は、出身高校に成績評価見込証明書の作成を依頼して下さい (書式は任意)。
d	バカロレア (Baccalauréat) を取得している (見込みを含む)	バカロレア (Baccalauréat) の成績評価証明書
e	アビトゥア (Abitur)を取得している (見込みを含む)	アビトゥア (Abitur)の成績評価証明書
f	ACTを受験している (Writingを必ず含む)	ACTスコア直送コード0607 * Superscoreは不可
g	SATを受験している (SAT Essay不要)	SATスコア直送コード3686 * Superscoreは不可

2026年度入試(4月入学者対象)入試結果

・総合型選抜

〈S基準〉

2026年度	出願者数	合格者数	倍率
	38名	14名	2.71

〈A基準〉

2026年度	出願者数	合格者数	倍率
	483名	133名	3.63

合否判定基準は？

一般選抜および共通テストの英語出願資格と「英語」得点換算(2027年度入試以降)

・ A方式入試（国語＋選択科目）（10）

英検	IELTS	TOEFL	「英語」得点換算
	7.5以上	100点以上（5.0以上）	120点に換算
英検1級	6.5－7.0	85－99（4.5以上）	110点に換算
英検準1級合格かつ CSE 2500以上	6.0	76－84（4.0以上）	100点に換算
英検準1級合格かつ CSE 2500未満	—	—	90点に換算

・ 大学入学共通テスト利用入試B方式（2教科の得点で合否判定）（17） 〈国語＋地理歴史公民 or 数学〉

〈出願資格〉 英検準1級以上合格、IELTS6.0以上、TOEFL 76点（4.0以上）以上を満たし、出願時にスコアを提出

・ 大学入学共通テスト利用入試C方式（6教科7科目の得点で合否判定）（3）

〈国語＋地理歴史・公民＋数学（数学I・A、数学II・B・C）＋理科＋外国語＋情報I〉 **国語、数学、情報Iは必須。その他は1科目選択。**

〈出願資格〉 なし

一般選抜共通テストの英語出願資格と「英語」 得点換算(2027年度入試以降)

・ A方式入試 (国語 + 選択科目)

〈2026年度入試まで〉

英検	IELTS	TOEFL	「英語」得点換算
	7.0以上	100点以上	200点に換算
英検1級	6.5以上	85点以上	185点に換算
英検準1級合格かつ CSE 2350以上	6.0以上	76点以上	175点に換算



〈2027年度入試以降〉

英検	IELTS	TOEFL	「英語」得点換算
	7.5以上	100点以上 (5.0以上)	120点に換算
英検1級	6.5 – 7.0	85 – 99 (4.5以上)	110点に換算
英検準1級合格かつ CSE 2500以上	6.0	76 – 84 (4.0以上)	100点に換算
英検準1級合格かつ CSE 2500未満	—	—	90点に換算

一般選抜および共通テストの英語出願資格と「英語」得点換算(2027年度入試以降)

- ・ 英語外部試験利用入試 (国語 or 数学)

〈2026年度入試まで〉

英検	IELTS	TOEFL	「英語」得点換算
	7.0以上	100点以上	150点に換算
英検1級	6.5以上	85点以上	140点に換算
英検準1級合格かつ CSE 2500 以上	6.0以上	76点以上	130点に換算



〈2027年度入試以降〉

廃止

一般選抜および共通テストの英語出願資格と「英語」得点換算(2027年度入試以降)

・ 大学入学共通テスト利用入試B方式

〈2026年度入試まで〉

2教科の得点で合否判定

〈国語 + 地理歴史公民 or 数学〉

〈出願資格〉 **英検1級合格および英検準1級合格 (CSE2350点以上)**、IELTS6.0以上、TOEFL 76点を満たし、出願時にスコアを提出



〈2027年度入試以降〉

2教科の得点で合否判定

〈国語 + 地理歴史・公民 or 数学〉

〈出願資格〉 **英検準1級合格**、IELTS6.0以上、TOEFL 76点 (4.0以上) を満たし、出願時にスコアを提出

・ 大学入学共通テスト利用入試C方式

〈2026年度入試まで〉

実施なし



〈2027年度入試以降〉

6教科7科目の得点で合否判定

〈国語 + 地理歴史・公民 + 数学 (数学 I・A、数学 II・B・C) + 理科 + 外国語 + 情報 I〉 **国語、数学、情報 I は必須。その他は1科目選択。**

〈出願資格〉 なし

2026年度入試(4月入学者対象)入試結果

・一般選抜

〈A方式入試〉

2026年度	出願者数	受験者数	合格者数	倍率
	105名	101名	13名	7.8

〈英語外部利用試験入試〉

2026年度	出願者数	受験者数	合格者数	倍率
	135名	132名	25名	5.3

〈大学入学共通テスト利用入試B方式〉

2026年度	出願者数	受験者数	合格者数	倍率
	98名	97名	5名	19.4

合否判定基準は？



東進TV 学部紹介ビデオ



X (Twitter)



@hosei_gis

LINE



法政大学GIS
(グローバル教養学部)

Instagram



GIS_OFFICIAL_IG

よくある問い合わせ(1/3)

Q1. 自己推薦入試S基準とA基準は併願できますか。

A1. **併願可能**です。また、法政大学の他学部や他大学との併願も可能です。ただし、併願先の大学・学部が専願（単願）指定がないかご確認ください。

Q2. S基準とA基準を併願する場合、出願書類は二度提出する必要がありますか。

A2. 一部書類（※）を除き、基準ごとに書類を提出する必要があります。Personal Statementについては、基準ごとに内容が同じでも異なっていてもどちらでも問題ございません。
 ※英語外部試験スコアやSAT・ACTのスコア等については、試験団体から成績証明書を本学に直送する場合にかぎり、1度のみのご提出で構いません。直送依頼日や試験日等から、本学に到着したデータを照合いたします。

Q3. Personal Statementや推薦状のフォーマットは、昨年度のものを使用しても問題ないですか。

A3. 必ず**最新のフォーマットをご使用ください**。
 フォーマットは、入試要項とあわせて7月下旬ごろに公開予定です。

よくある問い合わせ(2/3)

Q4. 調査書と紹介状2通は同じ封筒に入れて提出しても問題ないですか。

A4. 問題ありません。別々の封筒でのご提出でも構いません。

Q5. 英語外部試験スコアの提出方法について教えてください。

A5.

英検 : 【書類提出】 合格証明書、CSEスコア証明書の原本
※和文/英文どちらでも可
※個人成績表および合格証書は不可
※デジタル証明書は不可

TOEFL : 【直送手続】 試験団体にスコア電子送信を依頼
および
【書類提出】 受験者用控えスコアレポート Test Taker Score Report のコピー

IELTS : 【直送手続+書類提出】 試験団体にスコア電子送信を依頼
成績証明書のコピーの提出

もしくは
【書類提出】 成績証明書の原本

よくある問い合わせ(3/3)

Q6. 出願資格の有無について、事前に確認することはできますか。

A6. 当該年度の入学試験要項をご確認いただき、出願資格についてご不明点がある場合は、メールにてお問い合わせください。

Q7. 二重国籍などの理由により、提出書類によって氏名が異なる場合、どうすればよいですか。

A7. パスポートのコピーなど、同一人物であることが分かる公的書類をご提出ください。

Q8. 入学試験要項はいつごろ公開されますか。

A8. S基準・A基準は**7月下旬ごろ**、一般選抜入試は**11月ごろ**に、本学の入試情報サイトで公開予定です。
 本日の配布資料のうち、2027入試ガイド（冊子）は簡略版となりますので、出願時は、当該年度の入学試験要項をご確認いただくようお願いいたします。